

井原 ゆたか

(発行日) 令和7年3月

(発行元) 井原ゆたか事務所

さいたま市中央区下落合 1071-1 3F

活動報告

さいたま市の未来に向けた提案

- 1 緑と生活が調和する都市計画
- 2 子どもの夢、みんなの希望を叶える社会
- 3 公共事業を整理して、市民の手取りを増やす

さいたま市で相次ぐ不正事案が発生

- 1 生活保護費の不正支給
- 2 公衆街路灯 LED 化事業の不適正な事務処理
- 3 区画整理事業における公用地の不正売却

ライフワーク

冬の天体観望会を開催

背景：上峰ふれあい公園
クリーンセンターと野跡地に整備しました。

ご挨拶

今年の2月定例会を終えると、さいたま市議会議員に就任してから10年が経つこととなります。前回の市政レポートでは、さいたま市が抱える課題についてお伝えしましたが、現在の市政には未来に向けた明確なビジョンが欠けていると強く感じています。

一方で、国の施策を見ると、21世紀も四半世紀が過ぎ、人口構造も大きく変化する中、税制や社会保障の抜本的な見直しが必要であれば、将来を担う若い世代の負担がますます増えることは明らかです。議員として10年を迎え、改めて政治の現状を見つめると、自らの主義主張を明確にしない政治家が増え、市民の声に基づいた議論が十分に行われていないように思えます。さらに、さいたま市では職員による不祥事が相次ぎ、行政の自浄作用にも懸念が生じています。

私は、これからの四半世紀を見据え、「緑と共存できる都市計画」と「持続可能な社会保障の実現」を目指し、さいたま市に暮らす皆様が未来に希望を持てるような政策を提案してきました。本レポートでは、その具体的な内容についてご説明いたします。

井原 隆

さいたま市の未来に向けた提案

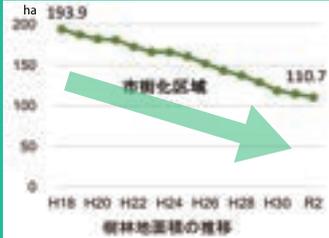
～誰もが夢を描けるまちを目指して～

一般質問や予算委員会などを通じて、様々な提案をしてみました

1 緑と生活が調和する都市計画

課題 公園と緑の減少

- ① 公園面積が少ない (約 5 m²/人：全国平均の半分)
- ② 市街地の緑が 15 年で半減



住み続けたい街には緑の空間が必要！



原因 明確な都市計画がないこと

街の明確なビジョンがないため、一貫性のない開発が進み、公共空間が少なくなっています。

提案 土地の有効活用

街なかの公共用地を活用した積極的な公園整備を！

- 例 沼影公園跡地に巨大な学校ではなく、緑と海をモチーフにした都市公園を整備
- 例 分譲住宅を作る際には「ポケットパーク」の整備も条件にする

もっと市街地に緑を！

- 例 個人住宅やオフィスのビル緑化に対する補助を拡大する

市街地の大規模用地の活用支援！

- 例 見沼区の旧日大法学部グラウンドのような広大な用地を守る

※片柳自治会連合会から出された要望を市長と議会は否決 (2024)



展望デッキとカフェの併設で野郎公園をリニューアルしました (2025年4月開園予定)

水辺空間のある沼影公園に作り変えれば、より魅力的な武蔵浦和地区になります

緑の空間は生活に安らぎを与え、ビジョンに基づく都市計画は市政の根幹となります。

2 子どもの夢、みんなの希望を叶える社会

課題 夢を持つ子どもの減少

子どもたちが夢を持っている割合は約 60% であり、過去に比べて少なくなっています。また、シニア世代も目標をもって物事に取り組むことが健康で長生きにつながります。

※2022年経済産業省「未来人材ビジョン」による

全世代において夢を持つことは大事であり、「夢支援」が必要！



原因 取り巻く環境の変化

- 体験活動の減少
- インターネットによる情報過多
- 将来への不安の増大

提案 全世代への夢支援

体験型教育の導入！

▶子どもたちが社会最先端のトレンドや地域の歴史、文化に触れて「夢」を育む

- 例 宇宙ビジネスの現場を体験、地域の祭りに参加、など

人への投資を推進！

▶一人ひとりの市民のスキルアップによって「夢」への挑戦を応援

- 例 リスキングの補助、女性の社会活躍の後押し、など

市民サークル活動の活性化！

▶シニア世代が新たな目標や人とのつながりをもつ

- 例 歩こう会、コーラス、将棋・囲碁クラブ、ボランティアなどの団体補助



私自身、宇宙飛行士に挑戦しました！現場の体験は刺激につながります

子どもの頃の地域での体験は、郷土愛にもつながります

リスキング (学び直し) は全世代に可能性を与えます

みんなが「夢」を持つことは人生を豊かにし、まちの活性化にもつながります。

3 公共事業を整理して市民の手取りを増やす

課題 不十分な公共支援と財政赤字

福祉の充実や子育て支援などの経費である「民生費」は 15 年で 2.5 倍も増加 →

若者世代の人口流入は多いですが、実情に即した支援もなく、経費は増える一方なので、将来的な財政赤字が見込まれます。



原因 時代に適さない予算の使い方

2000 年当初から人口統計は変わっても、予算の使い方が変わっていません。

提案 ムダの見直しと効率化、減税と補助

税金の浪費からの脱却！市の歳入増！

- 例 外郭団体の整理、一過性の大規模イベント廃止、企業 / オフィスの誘致

AI/DX を活用した業務効率化と人件費の圧縮！

- 例 人件費は約 1400 億円 (歳出の 20%) を占める窓口業務簡略化やペーパーレス化だけで約 70 億円 (5%) を節約可能



子育て世帯への減税および補助の拡大！

▶人口の自然増と若年層の負担の軽減を図る

- 例 給食費の無償化、住民税の均等割を 50% カット、高額な保育料の見直し

水道 / 下水道料金を 10% カット！

※さいたま市の水道料金は近隣自治体より高い

地産地消の給食に加え給食費の無償化を進めます

自治体で出来る経費コントロールの例	減税と補助		財源確保	
	住民税減税	50 億円	外郭団体整理	100 億円
	給食無償化	50 億円	人件費圧縮	70 億円
	水道料金引き下げ	20 億円	クリテリウムと国際芸術祭の廃止	10 億円

既存事業をスリム化し、必要な公共サービスに投資すべきです。人口の自然増と若年層の負担の軽減を狙います。

さいたま市で相次ぐ不正事案が発生

- ① 2021年 生活保護費の不正支給
市の職員が支給義務のない生活保護費を1271万円支給
- ② 2023年 公衆街路灯LED化事業の不適正な事務処理
債務負担行為をすることなく、随意契約で公共事業を発注
- ③ 2024年 区画整理事業における公用地の不正売却
与野駅西口の公用地を随意契約で路線価の8580万円で売却

以上のことからさいたま市の決算は2年連続で不認定です。また、①②は第三者委員会を設置して調査しましたが、③に関して、市長は第三者委員会を設置せずに職員ひとりの責任として解雇して幕引きを図っています。

一方で、市の職員ひとりの意思でこのような不正が成立するわけがなく、上層部や議員が関与していたという噂もあります。フジテレビの事例でも内部調査では付度があり明らかにならないので、第三者委員会を設置して調査を行っています。

真実を明らかにしないと不正はなくなりません。私は市長に対して第三者委員会の設置を求めるとともに、議会に対しても百条委員会を設置しての調査を求めています。「政治とカネ」の問題は徹底的にクリーンにすべきです。

③土地の不正売却



約100坪を8580万円で売却
⇒市場価格の約1/3



土地不正売却の謝罪会見においても
トップは市長ではなく部長でした

冬の天体観望会を開催しました

母校の与野本町小学校などにおいて、この冬に3回観望会を開催しました。今年の冬は、金星、火星、木星、土星と多くの惑星を見ることが出来るチャンスでした。寒い夜空の下でしたが、子どもたちから感動の声を聴くことが出来ました。

ご要望がありましたら各所で企画させていただきますので、お声掛けください。



【井原ゆたかプロフィール】 1983年1月13日さいたま市生まれ（42歳）

淑徳与野幼稚園卒園

与野本町小学校卒業

麻布中学校・高等学校卒業

東京大学理学部天文学科卒業

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了/理学博士取得

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了/MBA取得

2010年東芝ソリューション株式会社入社

2013年トヨタ自動車株式会社入社（出向）

2015年さいたま市議会議員初当選

2024年現在3期目

2022年JAXA宇宙飛行士選抜TOP50に選出



井原ゆたか事務所

📞 050-3418-7058 📠 050-3588-4018

✉ contact@yutakaihara.jp



公式HP



Youtube



X(旧 Twitter)

